平成２３年度サバティカル研究者（サバティカルＢ（一般））研究成果報告書

平成２３年１０月２５日

福岡教育大学長　　殿

所属講座・センター　美術教育講座
職　　名　准教授
氏　　名　松久 公嗣　　㊞

受入研究機関等名
Loris Malaguzzi International Center

受入教員の職・氏名
Responsible for Study Groupes and Hospitality - Reggio Children International Center
Loris Malaguzzi
Paola Ricco

研究期間　　平成２３年　７月　７日　～　平成２３年１０月　５日

研究題目
レッジョエミリア市における絵画を中心とした小学校芸術教育の調査

研究成果概要（８００字程度又は別紙添付）

Reggio Emilia 市における幼児教育での芸術的教育の内容について，Loris Malaguzzi International Center で公開されている研究資料を閲覧して「ドキュメント」と呼ばれる子どもの活動記録の作成方法を学び，その実践例について詳細を確認した。また，体験可能なアトリエ施設や研修会を体験するだけでなく，センター担当のアトリエリスタに取材することで，実際に行われているアトリエリスタを中心とした芸術的な環境整備について深く理解することができた。さらにセンターの中心的存在となる教育専門家とアトリエリスタのアドバイザーに面会し，組織的な問題点や対応策について取材することで，現在進める概算要求プロジェクトでの専科教育に関連する内容を確認した。

小学校に関して，Scuola Primaria Rivalta を訪れ，カリキュラムや実践内容を視察し，担任教諭らに取材することで幼児教育からの関連性や連携における問題点を確認することができた。この小学校では日本文化の一例として水墨画に関するワークショップを実践し，図画工作に関する実践を踏まえた意見交換をおこなった。交流を通して，小学校と大学あるいは小学校と小学校との作品交換等を含めた連携を提案頂き，継続した研究体制の整備について可能性が広がった。連携の在り方については，概算要求プロジェクトにおける大

学近隣の研究拠点校との連携や附属小学校との連携などを念頭に置いて進めていきたい。

また，ミラノを中心に美術館・博物館ならびに教会を回ることで，感性教育に関わる風土や環境について体感的に学ぶことができた。文化施設が集中するブレラ地区にあるギャラリーでは，日本でも展開している「掛け軸」に関するワークショップを企画および実演指導することで，イタリアでの日本文化の理解について考察した。この企画に関しても来年度に再度上級コースを開催する方向で話を進めており，サバティカル研究の機会によって，継続して研究することのできる交流環境を整備することができた。

本来のサバティカル研究課題の他にも，科研費研究「福永晴帆研究－客観的評価の確立と教育学研究への展開－」におけるイタリア王室への晴帆作品の献上記録について調査を進めた。当時の Savoia 王室が有していた文化財に関する資料は戦後の国外追放によって辿ることが難しくなっており，さらに帰国が認められた今日でもマフィアとの関係が指摘されて国民の支持を得られておらず，王族への面会は危険と判断するに至った。Savoia 王室に関する調査は必要な範囲で終了できたので，今後は献上に関する記述についてその信憑性等を日本の資料から辿ることとする。

Scuola Primaria Rivalta　絵画作品掲示風景↑（3 点）

Scuola Primaria Rivalta　水墨画ワークショップ風景→